



安城ロータリークラブ 週報

ROTARY CLUB OF ANJO

●NO. 519 2011/10 第4例会●



2011-2012 RI テーマ

テーマ 『 Let' s Enjoy Rotary 』

- 創立日：S33年1月10日 ●RI加盟認証日：S33年2月6日
- 会長：杓名俊裕 ●会長エレクト：大見 宏 ●副会長：石川 博 ●幹 事：永谷文人
- クラブ会報：神谷 研 寺田孝司 恒川憲一
- 例会日：毎週金曜日 12:30~13:30 ●例会場：碧海信用金庫本店3F / 安城市御幸本町15-1
- TEL: 0566 - 75 - 8866 ●FAX: 0566 -74- 5678
- Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp ●HP: <http://www.anjo-rc.org>

第2660回例会

2011年10月28日(金)12時30分から13時30分
 司会者：新田高広君
 ソング：「我等の生業」
 卓上花：カラー玉シダ
 ゲスト：京極悟様
 ビジター：なし

出席報告

会場委員会：福田雅美君
 会員57名 出席義務者44名 出席36名 欠席8名
 内出席免除者の出席9名 出席率84.90%
 修正出席率10月14日第2658回例会 89.09%

会長挨拶 会長 杓名俊裕君

(報告事項)

1. 2011-2012地区大会開催 全員登録について
 全員登録いたしましたので、多くの会員が地区大会に参加されることを希望します。なお、地区大会恒例の講演会は、下記のとおりです。
 - 11/19(土) 受付12:30 講演開始15:30
 講師 田母神俊雄氏
 - 11/20(日) 受付10:30 講演開始14:50
 講師 須田寛氏
2. 次の行事が予定されています。
 - 11/3(木) 第14回ロータリー杯RCC少年野球大会
 於：安城市ソフトボール場Aコート
 - 11/1(火) ランチ同好会 12:00 於：石かわ
 - 10/29(土) Anjo北斗講演会 17:00
 於：碧信3階
3. 「カンブリア宮殿」の放映について
 11月10日午後10:00から10:54まで、テレビ愛知で放映される「カンブリア宮殿」に我会員である兼松信吾君の大垣共立銀行が登場します。



(あいさつ)

元気印企業の紹介をします。

本日は、「新素材を開発し、社会を制す。」を企業経営の理念に据える東レ株式会社をご紹介します。その東レ(株)を引っ張っているのは、代表取締役社長日覺昭廣氏(につかくあきひろ)62歳です。日覺氏は、「モノを変えるには、「素材革命」が必要！」だと唱えています。東レ(株)には長年の技術の蓄積があります。1926年創業以来、衣料繊維は80年、1970年に開発した炭素繊維は50年、1970年代に開発した水処理素材(逆浸透膜)は40年といった具合です。これらの素材は、さらに技術革新が進み、衣料繊維はユニクロと共同開発したヒートテックへ、炭素繊維は航空機素材となりボーイング社との長期契約に結びつき、水処理素材は淡水化装置の受注へと実を結んでいます。

東レ(株)は、2011年3月期現在、時価総額9,120億円、売上高1兆5,390億円、営業利益1,000億円、経常利益988億円です。中期経営計画では、2020年3月期に売上高3兆円、営業利益3,000億円を目指し、年間設備投資計画額は1,000億円としています。

東レ(株)の新たなビジネスチャンスをつかむという経営姿勢について、前出の3例をもう少し具体的に見てみます。

東レのオリジナル繊維(得意としていた繊維)であるレーヨン繊維・アクリル繊維・ポリエステルとの組合せにより、「ヒートテック」が誕生するきっかけとなりました。メンズ用の「ヒートテック プラス」は、繊維のカット面が星形で表面積を増やし、汗を素早く吸収、拡散、蒸発する特徴を生み出しました。レディース用の「ヒートテック モイスト」は、ソフト感が豊かで保温効果に優れた素材に開発できました。

東レはユニクロ専用の製造ラインを設け、3年前は年間

ご案内

11月20日開催の地区大会へは、安城RCは全員登録をしました。次年度は安城RCがホストクラブとして、地区大会を開催します。多くの会員が地区大会に参加し、色々吸収しておいて下さい。



安城ロータリークラブ 週報

ROTARY CLUB OF ANJO

2, 800万枚を製造していましたが、2011年度には1億枚を製造しています。

未来の新素材でシェアNO. 1を期待できる炭素繊維（PAN系炭素繊維）の開発に成功し、ボーイング社の最新中型航空機ボーイング787の胴体にこの炭素繊維は採用されました。この炭素繊維の類い稀な特徴は、鉄に比べ「強度10倍」「剛性7倍」「重さ1/4」という優れた素材です。



ボーイング787は、機体の50%が炭素繊維で製造され、東レが独占供給しています。この炭素繊維のお陰で、燃料は20%削減でき、客室内やトイレが広くなり、窓も大きく取れました。航続距離も飛躍的に伸び、従来の中型機では日本からハワイまでしか行けなかったのが、ロサンゼルスまで一気に飛べるようになりました。このお陰で、東レはボーイング社と16年間の長期契約（2006年～2021年）を結ぶことができました。

世界の飲料水を創り出す。地球上の水の97%は海水です。海水以外で人が直接使用できる水は、地球上では0.0001%しかありません。東レの逆浸透膜を使用した海水淡水化装置は、サウジアラビア・クウェート・アルジェリア他で多く利用されています。東レのシェアは世界の海水淡水化装置（逆浸透膜RO使用）の30%を占め、6,500万人の生活用水に相当する水を生み出しています。（2009年10月東レ調査）

“まとめ”として、「素材が変われば、商品が変わる。世界が変わる。」としたいと思います。

幹事報告 幹事 永谷文人君

*例会終了後、クラブ奉仕委員会を開催します。

*中部名古屋みらいRC主催の環境講演会「クマともりとひと」の案内がきています。

委員会報告

社会奉仕委員会 深津正則君

RCCからの連絡

ロータリー杯争奪少年野球大会開催

11月3日 午前9:00から

安城市ソフトボール場Aコート

写真同好会 副会長 石川博君

12月4日開催予定でした写真撮影会は中止です。

ニコボックス報告 戸谷央君

本日のニコボックスメッセージの紹介。

卓話

- ・テーマ：「サンティアゴ巡礼の旅」
- ・担当者：プログラム委員会
- ・卓話者：京極悟様



皆さんサンティアゴ巡礼について、ご存じでしょうか？多分ほとんどの方が、ご存じないと思います。かくゆう私も、1年前まで知りませんでした。私がサンティアゴ巡礼を知ったのは、昨年6月に会社をリタイアし、定年旅行で妻とスペイン旅行へ行った後、妻が『スペインに巡礼がある。なんか、レオンという町らしいよ』と、言ったのがきっかけです。調べていくうちに、レオンではなくサンティアゴ・デ・コンポステーラという町らしい、事がわかりました。

サンティアゴ・デ・コンポステーラ（以後Sと言う）はローマ・エルサレムに並び、キリスト教の3大聖地と言われています。このSはスペインの北部、首都マドリドから約500Kmほど、離れています。

実は私は、浄土真宗東本願寺、いわゆる大谷派の寺の次男坊でして、私がSに行くと、言ったら親戚・友達に皆、なんで坊主の息子がキリスト教の巡礼にでるんだ、キリスト教に改宗したのか？と、不思議がりました。

何故、S巡礼に興味を持ったか、というと、実は、私は40年前学生のころ、一人で東南アジアを1ヶ月ちよっと、放浪してしまして海外旅行が好きで、機会があれば、長期にしかもツアーでなく自由旅行をしてみたい、と思っておりました。また、昔から世界史が好きで、特にナポレオンが好きでナポレオンがスペイン侵攻にピレネー山脈を越していったこともあり、一度はピレネーを超えたいと、思っておったからです。今年は、親鸞上人誕生七百五十回忌の年でありまして、5月に私どもの寺の檀家ともども、本山にお参りし、親鸞上人に『改宗したわけでない、人生を見つめ直しに行くんだ』、と了解を頂きました。

何故Sに、キリスト教徒が巡礼にゆくようになったかと言いますと、Sは、聖ヤコブのスペイン語で、英語ではセント・ジェームスいわゆるキリスト12使徒の一人であります。Sはキリストに命じられ、スペインへ布



教にまいりました。しかし、なかなか思うようには進まなかったようです。起源44年Sはエルサレムに戻りました。しかし、ここで時のユダヤ王のアグリッパにより殺されてしまいます。キリスト同様の復活を恐れた、アグリッパは、遺骸をエルサレムに埋葬することを許しませんでした。そこでSの弟子たちは遺骸を布教地であったスペインに運び埋葬しました。しかしやがて、その埋葬地は忘れ去られてしまいました。その後、スペインはイスラム国家ウマイア王朝に占領されイスラム国家となりました。時めぐり、813年に羊飼いに偶然、Sの墓が洞窟の中で見つけられ、その場所に、時のアルフォンソ二世により教会が建てられ、カンポ（野原）、とステラ（星の）を合わせた意味のコンポステラと名付けられました。ちょうど時を合わせ、8世紀初頭から、イベリア半島ではキリスト教復活運動のレコンキスタが隆盛となり、このキリスト教の守護神であるS巡礼がキリスト教徒の間でひろまりました。今では年間何十万という人が巡礼するようになりました。

【S巡礼の道のり】

このS巡礼にはいろんなルートがあり、この地図を見てください。一番ポピュラーなフランスからピレネ山脈を超える「フランスの道」、スペインの南のセビリアから上る「銀の道」、ポルトガルのリスボンを起点とする「ポルトガルの道」など、いろいろあります。私が行ったのは、フランスの道です。



【S巡礼の内容】

巡礼者の装備としては、3種の神器として、巡礼者であることを示すホタテ貝、水を飲む瓢箪、今はペットボトルになっていますが、最後に杖、こうして800Km



の道のりを、1日20Kmから30Km歩き30日から40日かけてSを目指します。巡礼者はどうゆう場所に宿泊するかと言いますと、「アルベルゲ」と言われる巡礼者の為の巡礼宿があり、1泊5ユーロ、600円くらいで泊まれます。この写真のように大部屋で男女区別なく、多くは2段ベッドで、毛布はなく、シュラフを持参

し、寝ます。夜は11時消灯という、いたって健康的な宿です。このアルベルゲに宿泊するには、クレデンシャルという巡礼手帳が必要です。写真は私のものですが、これには氏名・国籍・巡礼の目的など記入されています。この中に巡礼で立ち寄る教会・宿泊施設でスタンプを押してもらいスタンプラリーみたいに、巡礼路をまちがいをなく進んできたことを証明します。Sに到着した時、巡礼をきちんと終えた人には、コンポステラという「巡礼証明書」をもらうことができます。

ただし、これには2つの条件があります。1つは徒歩と騎馬ではSまでの最後の100Kmを、自転車では200Kmを踏破することです。2つめは、巡礼の動機が「宗教または精神的なものを求めて」というものです。

【私の巡礼計画】

私は「フランスの道」を選び、6月2日にセントレアを出発しまずパリに入り、3日に電車でフランス側のピレネーの麓のサン・ジャン・ピエ・ド・ポーに行き、そこで1泊し、4日に巡礼をスタートし、全行程800Kmのうち、3日間100Kmを歩きパンプローナまでゆき往復航空券の期限が1ヶ月しかありませんので、残り700Kmはレンタルで1日50Kmの計算で、2週間くらいかけてSまで行こう、6月の22日にはマドリドに戻り、暫く休養し、25日にマドリドを立ち、26日にセントレアに戻るといった計画を立てました。

この巡礼にあたり、参考文献を購入、図書館で借りたりまたインターネットで巡礼経験者の記事を読んだりし、S巡礼はどういう物か、何が必要か、どうしたら無事に巡礼を完遂できるか、調べました。特に、私にとってバイブルとなったのは「日本カミノー・サントイヤゴ友の会」発行の「聖地サントイヤゴ巡礼」でした。この本をもとに、途中のすべての宿場町、約200と、その距離を洗い出し、大まかな行程・宿泊を決めました。

言葉ですが、スペイン語はとてもしゃべれませんがせめて英語の簡単な会話ぐらいは喋れないと、と思いCD付の日常会話の本を買い、「ホリデイ・スポーツジム」の自転車を漕ぎながら、CDを聞き勉強しました。自転車での体力づくりに、私の家の榎前から、知多半島の師崎まで往復、実は50kmくらいと思っていたのですが、走ってみると70kmくらいありました。また、山道の練習と、三ヶ根山へ登りにも行き、山登りの往きは1時間半、帰りは10分で下ってきました。

電車のキップ・ホテル・レンタサイクルの予約は、幸い、フランスを良く知っている、知り合いの女性に頼むことができ、随分助かりました。

次にSまでの道のりですが、まず起点のサン・ジャン



は標高200m、そこからピレネー山脈、あのナポレオンも越したと言われる「レポエデール峠」約1400mを超えていきます。この行程がありますように、途中「ベルドン峠」、「ペドラハ峠」、「イラゴ峠」、「セブレイロ峠」の5つの難所を越し、やっとSに到着できる、という厳しい道のりです。

【私のカミーノ・デ・サントイアゴ】

さて、いよいよ巡礼本番ですが、私が撮った写真と一緒にお話してまいりたい、と思います。まず最初「Buen Camino!」これが巡礼者同士が会った時、また地元の人から巡礼者への激励の言葉です。意味は、ブエンは良い・とか素晴らしいとかの意味でカミーノは巡礼路の意味です。私も最初は言うのが、たどたどしかったのですが、そのうち自然に「オラ！ブエン・カミーノ！」と、言えるようになりました。

6月2日セントレア発の中国国際航空で、北京経由で、パリにむかいました。モナルクスに泊まり、翌3日の朝、TGVでバイヨンヌへゆきローカル線に乗換、サントジャン・ピエド・ポーに夕方、着き、巡礼事務所へ行き、クレデンシャルを発行して貰い、お道具、杖を買って求め、巡礼者の準備を整えました。

翌4日巡礼初日のスタートです。このように、サングラスをかけ少し怪しい風体ですが、前に貴重品・資料等を入れたリュック、背中に全持ち物を入れたバックパック合わせて20Kg近くになってしまいました。初日のピレネー山脈の1400mの「レポエデール峠」越えです。ナポレオンも通った道に感無量です。これは途中であった南アフリカのジョアンナです。ピレネーの景色はまことに雄大で、最高の気分でした。ピレネー初めは快調でしたが、昼食に買ったパンも途中で落とし、昨日買ったオレンジと水でしのぎました。皆さんの中には、巡礼路はどうやって見つけるのだ、変なところへ行ってしまうのか？、と思ひの方がみえるか、と思います。実は、巡礼路はある一定の区間にこの黄色い矢印が道路の上、建物の壁、木の幹などに描いてあり、それを目印に進んでい



けば、間違いなくSに向かって進んでいることとなります。しかし、それでも途中なんども、この道でいいのか不安になる時があります。そんな時は、地元の人に「カミーノ！カミーノ！」と叫べば、正しい道を教えてくれます。しかし、それでも何度も道を間違え、途中で気づ

き、戻ることになりました。国境越えには、人は誰もおらず、ただ国境を示す鉄の柵はあるのみで、ああもうスペインに入ったんだ、厳しく検問をイジめる国境が、EU 統合によりこんな風に変化した、と体感できました。その後、下り坂がきつくなり、だんだん親指のつま先が痛くなりました。実は、事前知識として靴は臭くなるので、靴敷きを敷いて清潔に保ったほうが良い、と本に書いてあり、そうしたのですが、微妙に親指を圧迫することになり、初日から親指の爪を痛めてしまいました。足を引きずり28Km歩き、やっと、の思いでピレネー山脈のスペイン側の町のロンセスバージェスに到着できました。ここで初めてアルベルゲに宿泊しました。

巡礼2日目、ロンセスバージェスからスピリまで22Km歩きます。朝、私の荷物のパッキングが遅い為、昨日の仲間は先に出発しました。これは途中の風景です。この日は韓国の人とたくさん知り合いになり、その人たちとの写真です。

巡礼3日目はスピリから、牛追い祭りで有名なパンプローナまで22Kmです。この写真は何か、とお思いですか？実は、歩いていると、トラックが荷台にフランスパンを満杯に乗せて追い越していきました。するとヤオラ、パンをばらまき始め、そこにこの馬たちが群がりフランスパンにむしゃぶりついている写真です。これがパンプローナの旧市街へ入る所です。旧市街は石垣に囲まれ、敵に攻められてもいいようになってます。ここで、予約していたペンション、という日本ではあまりなじみのない宿に泊まったのですが、このペンションは大通りに面してはいるんですが、入り口が非常にわかりにくくなっており、看板も小さなもので、さらに自分の部屋まで辿りつくのに3つも鍵が必要なのです。一つは通りから建物の中に入る鍵、二つめはペンションの中に入る鍵、3つ目がやっと自分の部屋に入る鍵。しかも、この鍵がくせもので、コツをつかまないと、うまく開かないという、シロモノです。外出から帰って鍵が開くか、心細いことこの上もありませんでした。予約していた自転車も届いており、今まで3日間、一緒だったメンバーとも別れることになり、心機一転がんばらなければ、と、思いました。

巡礼4日目、本日から自転車で巡礼です。今日の予定はパンプローナからエステージャまで45Km、しかも、難所ベルドン峠越えである。

朝、ペンション1階の扉をあけ外の天気はどうか見よう、と出たら、入り口のドアが閉まってしまいました。鍵は返してしまい、自転車ごと荷物が中に残ってしまった。どうしよう？、入り口のイタコでその旨連絡したら、何とか連絡がつき、ドアをあけてくれました。なんか、縁



起の悪いスタートでした。巡礼路の黄色い矢印に従い、パンポナの町を抜け出ました。途中しよぼ降る雨の中、だんだん勾配がきつくなる。自転車を降り、坂道を引いて、登っていきました。とうとう道はドロドロ道となり、押しでも引いても、自転車が動かなくなりました。実は、昨日夕方どしゃ降り雨が降り、さらに雷もなり、3時間くらい豪雨が続いたのです。そのため、道は狭く・急こう配の上、ドロドロ道で、仕方がなく自転車を上がろうとしたのですが、自転車15Kg、荷物20Kg、自転車に付いたドロ10Kg、合わせて45Kgを持ち上げようとすると、ズルズルと、足が滑ってしまいました。徒歩での巡礼者は、私を尻目にもくもくと、坂を登ってゆく。なかには、途中自転車で追い越した女性にも、抜き返されほどでした。やっとの思いでペルドン峠の頂上についたら、この写真のごとく、全身ヘルメットからトッキングシューズの先までドロだらけ、この後ろにかすかに見えるのが自転車です。その後の下りも大変でした、急こう配の上、階段になっている所もあり、へたをすると命にもかかわり、注意に注意を重ね下っていきました。スピードが出過ぎ、そちらに注意がいき、帽子・杖・サングラス片方等、いろんなモノが飛んでいってしまいました。

また、途中、巡礼路を捜しながら、走っていると、1本道でスウーと下っていくと、なんと高速道路に入り込んでしまいました。私の横をクラクションを鳴らしながら、100Km以上のスピードで車が走っていきました。えらいことになったと、オロオロしながら中央分離帯に逃込みました。そういえば侵入する時、車専用みたいな看板があったな、と思い返しました。しかたがないので、車が来ないスキを見計らって、高速を逆走し、元の道に必死で戻ったのでした。

何故高速道路の入ってしまったか、というところについては高速道路は基本的に無料で、料金ゲートがなく一般道からそのまま入ってしまうからです。

途中、プエンテ・ラ・レイナ（王妃の橋）を通り、その日の目的地エステージャに到着。4時半ごろ、やっとの思いで、アルゲルゲに行けば、徒歩優先で、自転車の人は7時まで待って、ベッドが空いていれば泊めてやるとのこと。しかたがないので、疲れた体に鞭打って、宿を教してもらい、なんとかねぐらを確保。宿でヘルメット・ウインドブレーカー、ズボン等の泥をおとすのに一苦労だった。悪い事は重なるもので、雨と疲れのせいか、体がだるい。その日はバッファリンを飲み寝てしまった。そこで考えた。「どうも自転車はボクの巡礼に合っていないな！」

巡礼5日目、昨夜のだるさもなくなり、本日はエステージャから、ロゲローニョまで、約50Km。本日は旅出る前から

の、楽しい場所がある。それは「ワインの泉」である。12世紀から巡礼者の道しるべとなっている、イーチリイラーである。片方の蛇口からは水が、そしてもう一つの蛇口からは赤ワインが出て巡礼者の渇きを癒してくれる。写真は赤ワインを飲んでいるところです。さらに自転車を漕ぎながらいくと、景色が非常によくなった。これからは、巡礼路でなく国道をひた走り、12時半にはログローニョに到着した。

ここで今までの反省として、どうもこのまま自転車で完走するのは無理だな、と思った。理由は、道中話しながら漕ぎ訳にいかず友達ができない。スピードが出過ぎると道を良く間違える。アルゲルゲが7時しか受付しない。まだ先、難所が3ヶ所あり大変。

そこで計画を大幅に変更し、自転車を止め徒歩に変え、ショートカットしていこう、と考えた。電車がブルゴス・レオン、S手前200Kmのポソフェータまであり、そこまで電車で行って、そこから歩こう、と考えた。借りた自転車は、幸い、ブルゴスが本社なので、途中返却しようと思いましたが。これからは時間の関係で少しはしよって説明させていただきます。

巡礼6日目ロゲローニョでたまたま祭りの日に当たり、午前に見学し、午後、電車にこのように自転車を持ち込み、車窓にワイン畑を見ながらブルゴスへ移動。これがブルゴス大聖堂です。

巡礼7日目、自転車を返却し、その後レオンまで電車で180Km移動。これが、ステンドグラスの美しいレオン、大聖堂です。



巡礼8日目、レオンからポソフェータまで100Km。電車の時間が合わず、バスで移動。ターミナルで日本女性二人と会う。ポソフェータに到着し、ここからSまで、200Kmを徒歩でめざします。その日は、15Km歩き、カハロスに到着。

巡礼9日目、バルカルセまで25Km歩く。スウェーデンに留学してる日本女性とです。

巡礼10目はバルカルセから、フョリア28Kmまで歩く。本日は最後の難所のオセブレイロ峠、標高1300m超えです。その途中、レオンからガリアに入る県界の、印の石です。不思議なことに、スコットランドしかないか、と思っていたケルト文化が残っており、昔ここまでケルト人が移動してきたのがわかります。これがオセブレイロ峠の頂上です。雄大な景色を見てください。途中スペインの3人の女性と道



安城ロータリークラブ 週報

ROTARY CLUB OF ANJO



連れになりました。巡礼路は人間より、牛優先で、通り過ぎるのを待ちます。

巡礼 11 日目、フンフアから、サリアまで 30 Km 歩く。S まで残り 100 Km の標石です。

巡礼 12 日目、サリアから、ポルトマリンまで 22 Km 歩く。このころから、手持ちのユーロが少なくなり、心細くなる。朝、銀行に行きカードでユーロの現金を引き出そうとするが、日本円をユーロに両替を頼んでも、断られる。これは道中一緒となった、イスラエルとフランスの女性です。

巡礼 13 日目、メリデまで 38 Km 昨日の 3 人とバスでショート・カットの移動。韓国人たちと奢りで、メリデ名物のタコ料理（プルコ）を食べる。

巡礼 14 日目、本日は、雨模様の天気なのでアルスアまで 15 Km 歩き。早めの宿をとる。アルベルグが開くのは 1 時からなので、開くまでこのようにバックパックを置き待機する。夕食に名物のチーズとパン・ワイン・サクランボ・オレンジをスーパーでカードで買い、しめて 12 ユーロ。チーズの量が多く、写真のコスタリカ人のイシーグロに半分に分ける。

巡礼 15 日目、モンテ・ド・ゴリまで宿場町を見過ごし、34 Km も歩く羽目になる。二つ目の宿場も見過ごし歩いていると、このドイツ女性二人と会う。彼女らは、ホテルは途中で、取っているのだが、時間があるのでモンテ・ド・ゴリまで歩いてみよう、となったらしい。別れ際に、私が持ち銭がない事を知り、一人が 10 ユーロ、もう一人が 1 ユーロカンパしてくれました。まさに、人間の優しさに触れ、涙が出そうになりました。モンテ・ド・ゴリの意味は「歓喜の丘」で、S を目指し長旅を続けてきた巡礼者が初めて S 大聖堂を見遠し歓喜の声を上げた、ことに由来するそうです。

巡礼 16 日目、モンテ・ド・ゴリから S まで 5 Km の道のりです。とうとう最終目的地到着の日です。この黄金色に光っているのが大聖堂です。そして大聖堂の中に、S 像が燦然と鎮座しています。その後、巡礼事務所へ行き、念願の「巡礼証明書」を発行してもらいました。ちょうど日曜日で 12 時からのミサに参加し、無事到着したお礼と、東日本の復興を祈った。



こうして、私の S 巡礼の旅はなんとか無事に着け、当初の目的を達成することができました。

1. S 巡礼を完遂できたのは・途中、予定とは大幅に狂ってきましたが、大きなケガもなく、無事達成でき、巡礼証明書をもらえたのは、私一人の力ではありません。まず、家族も協力、私の旅の安全を祈って、このように孫の写真が入ったお守りを作ってくれました。毎朝出発時には、この孫の写真に「今日も頑張るよ！」と、声をかけ気合をいれ出発しました。また、道中の予約をしてくれた友人そして、巡礼の旅で出会った様々な人のいろいろな助け、そのお蔭で S 巡礼を達成できた、と思います。

2. 日本について感じたこと 2 点

① S 巡礼で会った日本人の若者、特に男性が少なかったことです。反面韓国人が非常にたくさん、しかも若者が多く、なかには会社を辞めてきたという女性もおり、いい度胸しているな、と感服させられました。韓国パワーにはカミーノでも圧倒されました。日本の若者の活力がないなあ、と思いました。

② 名古屋の知名度について、道中 100 人くらいは会ったと思いますが、ほとんどの人は知りません。もっと、名古屋も含め、日本に来てもらう活動が必要だと思います。それには若者をターゲットにし、もっと気軽に値打ちに日本旅行できるよう、便宜・仕組みをすることです。目先ではなく、5 年・10 年のスパンで考えることが必要ではないでしょうか？彼らが日本の良さを理解したら、必ずピーカーとして、再訪してくれます。

本日、私がこうして皆さんの前でお話しさせていただけるには、S 巡礼という未だ日本ではあまり知られてない旅行をしたからで、なんとか御恩返しをしたい、と思います。スペインにはマドリッド、バルセロナ、グラナダ、コルドバ、セビリア等、有名な観光地も数々あります。

しかし、私のお願いとしては、スペインに行かれるなら、是非 S も旅行の日程に入れていただき、巡礼の雰囲気を感じ取っていただければ、と思います。

最後に、途中ケガもなく、道中つつがなく巡礼を終えることができたのは、「日頃、ホリデイで鍛えているからだ、と言え！」と杓名社長に言われました。ご清聴感謝いたします。ありがとうございました。



モンテ・ド・ゴリ(歓喜の丘)

